

シーボルト『NIPPON』のフランス語版 : Voyage au Japon

宮崎, 克則
九州大学総合研究博物館

<https://doi.org/10.15017/15731>

出版情報 : 九州大学総合研究博物館研究報告. 6, pp.1-32, 2008-01. The Kyushu University Museum
バージョン :
権利関係 :



シーボルト『NIPPON』のフランス語版 - Voyage au Japon -

宮崎克則

The French Version of Siebold 'NIPPON' - Voyage au Japon - Katsunori MIYAZAKI

九州大学総合研究博物館：〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
The Kyushu University Museum : Hakozaki6-10-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581 Japan

はじめに

1832年からオランダのライデンで自費出版された『NIPPON』は、オランダ語で刊行する約束だったが、ドイツ生まれのシーボルトはドイツ語で出した(1)。ドイツ語版からオランダ語版(第1分冊のみ)が出され、次いでフランス語版・ロシア語版も出る。ここでは、シーボルトが監修し、モンリーとフレシネが翻訳し、フランス王ルイ・フィリップの第1王子オルレアン公の援助を受けてパリのベルトラン社が刊行したフランス語版について検討する。

『NIPPON』フランス語版のタイトルは、『Voyage au Japon』に改題されている。ドイツ語版のタイトルは、「NIPPON」が主題で、副題として「日本およびその近隣諸国と保護国、すなわち南千島列島を含む蝦夷・樺太・朝鮮・琉球諸島に関する記録集」とあった。フランス語版の主題は「日本旅行」に変更されている。刊行の形式は、ドイツ語版と同じく分冊で出され、図版編は12分冊、本文編は1巻と5巻が出た。もともと図版編は20～22分冊、本文編は1～5巻を予定していたが、部分のみで終わっている。刊行年について、図版編の仮表紙には何も記されていないが、本文編1巻の内表紙に「M DCCC XXXVIII」(1838)、5巻に「M DCCC XL」(1840)とあることから、1838～1840年に刊行されたといわれている(2)。ドイツ語版は第1回配本が1832年、13回配本が1851年であり、その後1858～59年に「琉球諸島」等に関する部分が出ているので、フランス語版はドイツ語版の部分訳である。

図版編・本文編をセットで所蔵している機関は未調査であるが、図版編については未製本のシーボルト記念館(長崎)本を主体に、上智大学図書館本・ブランデンシュタイン城博物館本(シーボルト子孫のコンスタンティン・フォン・ブランデンシュタイン=ツェッペリン氏所蔵)を参照し、本文編は大英図書館本・東洋文庫本(ともに製本済み)を参照した。フランス語版については、1837年10月に出た予約募集書が残っているので、これを紹介しつつ『Voyage au Japon』の内容を復元しよう。これによって、シーボルトの『NIPPON』に関する出版方針も明らかにすることができよう。

〔注〕

(1) マティ・フォラー他『シーボルトと日本』、Hotei出版、Leiden、2000年

(2) ハンス・ケルナー(竹内精一訳)『シーボルト父子伝』163頁、創造社、1974年